

訂正箇所	誤	正
23頁 表12 「導電率」の行	<10MΩ	>10MΩ
57頁 図17 y軸	反応速度	Vmaxに対する反応速度
57頁 図17 曲線	(Vmaxを超えている)	(Vmaxを超えない)
57頁 図17 曲線	(1次反応領域がKmを超えている)	(1次反応領域はKmを超えない)
57頁 左段 (2)式	$v/[E_0]=k_2[ES]/([E] + [ES])$	$v/[E_0]=k_2[ES]/([E] + [ES])$
57頁 右段 (5)式	$v=V_{max} \cdot [S]/K_m + [S]$	$v=V_{max} \cdot [S]/(K_m + [S])$
58頁 左段 下から12行目	$K_m + [S]$	$(K_m + [S])$
91頁 図5	エノラーゼ	ホスホグリセリン酸ムターゼ
91頁 図5	(2-ホスホグリセリン酸からホスホエノールピルビン酸に向かう矢印の酵素名として右記を追加)	エノラーゼ
91頁 図5	(3-ホスホグリセリン酸の構造式)	$\begin{array}{c} \text{COOH} \\ \\ \text{H}-\text{C}-\text{OH} \\ \\ \text{CH}_2-\text{O}-\text{P} \end{array}$
91頁 図5	(ホスホエノールピルビン酸の構造式)	$\begin{array}{c} \text{COOH} \\ \\ \text{C}-\text{O}-\text{P} \\ \\ \text{CH}_2 \end{array}$
100頁 図14	(ケトアミンの構造式)	
112頁 図2	(トリグリセリド(トリアシルグリセロール)の構造式)	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{CH}_2-\text{O}-\text{C}-\text{R}_1 \\ \\ \text{CH}-\text{O}-\text{C}-\text{R}_2 \\ \\ \text{O} \\ \\ \text{CH}_2-\text{O}-\text{C}-\text{R}_3 \end{array}$
113頁 図3	(ホスファチジン酸の構造式)	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{CH}_2-\text{O}-\text{C}-\text{R}_1 \\ \\ \text{CH}-\text{O}-\text{C}-\text{R}_2 \\ \\ \text{O} \\ \\ \text{HO}-\text{P}-\text{O}-\text{CH}_2 \\ \\ \text{OH} \end{array}$
113頁 図3	(グリセリン脂質の構造式)	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{CH}_2-\text{O}-\text{C}-\text{R}_1 \\ \\ \text{CH}-\text{O}-\text{C}-\text{R}_2 \\ \\ \text{O} \\ \\ \text{置換基}-\text{O}-\text{P}-\text{O}-\text{CH}_2 \\ \\ \text{OH} \end{array}$
114頁 図4	(グリセリン脂質(ホスファチジルコリン)の構造式)	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \text{CH}_2-\text{O}-\text{C}-\text{R}_1 \\ \\ \text{CH}-\text{O}-\text{C}-\text{R}_2 \\ \\ \text{O} \\ \\ \text{コリン}-\text{O}-\text{P}-\text{O}-\text{CH}_2 \\ \\ \text{OH} \end{array}$

129頁 図17 説明	遊離脂肪酸を消去したのちに	遊離型グリセロールを消去したのちに
141頁 6行目	③生体中のアミノ酸には20種類が…	③生体中の蛋白質を構成するアミノ酸には20種類が…
144頁 表1 「アミノ酸」列8行目	シスチン	システイン
144頁 表1	(シスチンの側鎖構造)	SH-CH ₂ -
145頁 表2 12行目および下から8行目	シスチン	システイン
147頁 左段 下から10-9行目	2分子のシスチン残基2-SH→S-Sが酸化してできるもので、	2分子のシステイン残基が酸化されてできる(2-SH→S-S)もので、
160頁 左段 下から3行目	アルカリ側	酸性側
177頁 表1 ピロリン酸の数値	-27.6 (kJ/mol) , -6.6 (kcal/mol)	-19.2 (kJ/mol) , -4.6 (kcal/mol)
178頁 図1	(クレアチンリン酸の構造式)	
178頁 左段 11行目	リン酸が2つ以上結合した…	リン酸が2つ結合した…
178頁 左段 12-14行目	自由エネルギーは3kcal/mol程度であるが、ATPに結合したリン酸の加水分解では7kcal/molと非常に高い。	自由エネルギーは-3kcal/mol程度であるが、ATPに結合したリン酸の加水分解では-7.3 kcal/molと非常に大きい。
178頁 右段 2, 4行目	ΔG ⁰	ΔG (表記の統一)
179頁 図2 (2)	pH 9.0, pH 7.4	pH 9.0, pH 7.4, クレアチンキナーゼ (条件を追加)
184頁 図1 右下の構造式の物質名	クレアチン	クレアチン
189頁 図6 2つ目の反応式の右辺	(NH ₂) ₂ CO	(NH ₂) ₂ CO
189頁 図6 4つ目の反応式の左辺	H ₂ O	H ₂ O ₂
190頁 図7 左上	5'-ヌクレアーゼ	5'-ヌクレオチダーゼ
190頁 図7 左上	グアニン	グアニン+アデニン (矢印の真下にアデニンが位置するのが正)
190頁 図7 左上	アデニンジアミナーゼ	アデニンデアミナーゼ
190頁 図7 左下	プリンヌクレオチドホスホリラーゼ	プリンヌクレオチドホスホリラーゼ
191頁 図8	(尿酸の構造式)	
191頁 図8	(アラントインの構造式)	
191頁 図8 右下	ベルオキシダーゼ	ベルオキシダーゼ
193頁 図10 (2)	WST-8を400 nmで測定	水溶性ホルマザン (460nmで測定)
193頁 図10 説明	NADS : DADシンターゼ	NADS : NADシンターゼ
193頁 左段 3行目	グルタミンは肝臓で尿素サイクルに組み込まれ…	グルタミンは最終的に肝臓で尿素サイクルに組み込まれ…
200頁 図2 右上	NADPH ⁺	NADP ⁺
200頁 図2 左側		(ヘムの構造式及びビリベルジンの構造式とH ⁺ の間に「+」を追加)
202頁 図4 中ほど	アルカリ性	中性
216頁 右段 10行目	負の誤差を生じるため、	正の誤差を生じるため、
219頁 図6 中ほど	AST	ALT
222頁 図10 中ほどの上	NAD	NAD ⁺
222頁 図10 右下	MTT	(左記を削除)
226頁 右段 7行目	ATP+ADP	ATP+AMP
227頁 図15 3つ目の反応式の左辺	NADP	NADP ⁺
241頁 図25 2つ目の反応式の左辺	p-ヒドロキシベンゾイルコリン	p-ヒドロキシ安息香酸
241頁 図25 2つ目の反応式の右辺	NADP	NADP ⁺
246頁 左段 2行目	慢性肝炎 (非代謝性)	慢性肝炎 (非代謝性)
249頁 左段 c項の1行目	7~14 U/L (DCAP基質法)	7~14 U/L (DCAP-P基質法)
253頁 左段 2-a項の2行目	ビルビン酸をMDと共役させ、	ビルビン酸をLDと共役させ、
261頁 左段 1-a項の下から2行目	同時に7項目 (表5) の薬物を	同時に8項目 (表5) の薬物を
261頁 表5	(最下行に右記を追加)	バルビツール酸類 300 (ng/mL)
266頁 左段 下から2行目	Cu ²⁺ に還元し、	Cu ⁺ に還元し、
304-305頁 表1 下から2行目「ビタミンE」の「化学名」列および「基準範囲」列	トコフェロール	トコフェロール
307頁 図3 NADH構造式中	N ⁺	N